

「第2次長崎市人権教育・啓発に関する基本計画(改訂版)」に基づき、さまざまな人権課題の取り組みの一つとして、LGBTなどの性的少数者への取り組みを進めている。

現在は、性的少数者や多様な生き方を認め合いながら生きることの大切さについて、市民の正しい知識を育てるために、人権問題講演会や中小規模の講座の開催、リーフレット等への記載などに取り組んでいる。

今後引き続き、市民に対して正しい理解を促し、社会全体が多様性を受け入れるための取り組みを進めたい。

LGBTとは

L：(レズビアン／女性同性愛者)

G：(ゲイ／男性同性愛者)

B：(バイセクシャル／両性愛者)

T：(トランスジェンダー)

／性同一性障害など)

の頭文字を取った単語で、性的少数者の総称の一つ

創生自民

銅座市場崩落事故の対応

問 今後の銅座川プロムナード整備事業への影響と市場周辺への安全対策に

ついて伺いたい。

答 銅座川プロムナードについては、まちぶらプロジェクトの一環として、銅座地区の新たなにぎわいを創出し、魅力的なエリアとして、人々が集い、にぎわうまちづくりを進めるため、平成36年度完成に向けて事業を進めている。

現在、用地取得を主体に事業を進めているが、今回の事故により事業の遅れが生じないように、引き続きスピード感を持って対応したい。

また、安全対策としては、銅座川に崩落した瓦れき等による降雨時の二次災害や、崩落拡大により周辺の建物への影響波及のおそれがあることなどから、現在、瓦れきの撤去などの作業を行っている。

また、銅座市場の解体を行う段階においては、周辺の建物等に影響がないよう細心の注意を払いながら、安全に解体を進めていきたい。



▲銅座市場の崩落現場

官民協働による交流拠点施設の生かし方

問 交流拠点施設を生かして地元事業者の仕事をつやすため、官民連携によ

り、どのように取り組もうとしているのか。

答 経済波及効果をより大きくするためには、ハード面とあわせて官民一体となったソフト面の取り組みが必要不可欠と考えている。その中で、平成28年11月には100以上の地元企業や団体が参画する「長崎MICE事業者ネットワーク」が設立され、学会の視察やセミナーの実施など、地元受注拡大に向けたスキルアップが図られている。

また、長崎国際観光コンベンション協会において、MICE開催時に地元事業者の紹介や地元飲食店への誘客などを行っているが、今後は、グラバー園や出島など、長崎独自の観光資源や地元商店街などを活用したユニークベニューやアフターコンベンションにより、より多くの経済効果を地元にもたらし、より多くができて考えている。

長崎市としては、今後とも地元への経済効果を高めるための取り組みを官民一体となって進めていきたい。

日本共産党

交流拠点施設の建設

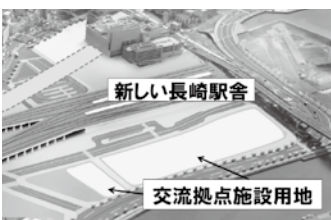
問 MICEの推進に関しては、既存の施設で対応するべきだと考えるが、市の見解を伺いたい。

答 少子高齢化の進展による経済の縮小が懸念される中、長崎市では地域資源を最大限に生かし、交流人口をさらに拡大していくことが求められている。

その中で、MICEの推進は、観光客だけでなく新たなビジネス客などの来訪により、まち全体の活性化が期待されることから、長崎市にとって重要な取り組みであると考えている。

しかし、現在、受入施設については複数の会議室や展示機能などがなく、MICEを開催するための機能として十分でない状況である。

交流拠点施設は経済を活性化させ、市民生活を支えることにつながる未来への投資であり、標準装備すべき施設であると考えているため、今後も市民説明会等の開催を含め、提案内容を丁寧に説明し、ご意見をいただきながら交流拠点施設の整備検討を進めた。



▲交流拠点施設建設予定地